

令和3年度  
自己評価報告書

令和4年3月11日  
アンビシャス国際美容学校

## 目次

I. 学校の現況.....	1 ページ
II. 評価の基本方針.....	2 ページ
III. 重点目標.....	3 ページ
IV. 項目毎の記述.....	4～8 ページ

## I. 学校の現況

- (1) 学校名 アンビシャス国際美容学校
- (2) 所在地 大分県大分市大字市 551 番地
- (3) 沿革 2003 年 『ワールドビューティーアカデミー』開校（大分市新明治）  
（厚生労働大臣指定 美容師養成施設）  
2004 年 『アンビシャス国際美容学校』に校名変更  
2007 年 わさだエリアに校舎を新設移転（大分市市）  
2010 年 大分県認可専修学校へ  
2013 年 創立 10 周年  
・記念事業実施  
・「アンビシャス国際美容学校同窓会」発足  
2018 年 創立 15 周年  
・「超美容師特化型カリキュラム」始動  
・「AMBI 祭」会場をトキハわさだタウンへ

### (4) 学科の構成

美容科 昼間課程 / 美容科 通信課程（春期・秋期）

### (5) 学生数及び教職員数(2022 年 3 月 1 日時点)

学生数	美容科 昼間課程	35 名
	美容科 通信課程	23 名
教職員数	専任教員	6 名
	兼任教員	5 名

### (6) 施設の概要

普通教室 2、実習室 1、消毒室 1、多目的室 1、図書室 1、職員室 1、理事長室 1、医務室 1

## II. 評価の基本方針

### (1) 学校評価への取り組み

学校が実践的な職業教育等を目的として自らの教育活動やその他の学校運営について、関係業界等のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価・公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、学校関係者等への適切な説明責任を果たすとともに理解と参画を得ることで、連携と協力による特色ある学校づくりを進める。

これにより、学生が質の高い実践的な職業教育等を享受できるよう、学校運営の改善と充実を目指すための取り組み。

### (2) 自己評価

評価項目・指標等を設定し、また外部アンケート等を活用し、自己評価を実施する。

#### 【自己評価項目】

- 教育理念・目的・人財育成像
- 学校運営
- 教育活動
- 学修成果
- 学生支援
- 教育環境
- 学生の受入れ募集
- 財務
- 法令等の遵守
- 社会貢献・地域貢献

#### 【外部アンケート】

- 在校生アンケート（学校生活に関するアンケート・授業アンケート）
- 卒業生アンケート
- 就職先アンケート

### (3) 学校関係者評価

学校関係者を選任し、学校の諸活動の観察等を通じて、当該年度の学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価を実施する。

### III. 重点目標

#### (1) 重点目標(2020年度の目標が達成したとはいえず、継続。同時に見直しを図る。)

##### 超美容師特化型カリキュラムを完成させよう!! ※2020年度目標

創立15周年にあたる2018年度に発足した“超美容師特化型カリキュラム”の1期生である第16期生が昨年度(2019年度)卒業した。当該カリキュラム初めてとなる卒業生の誕生は、当該カリキュラムの成果を見極める機会となった。達成度をしっかりと検証し、当該カリキュラムの見直しを行い、完成版を編成して指導にあたる。(卒業までに達成を目指す3項目…①カットデビューすること。②国家試験に合格すること。③より多くの人に支持されること。)

#### (2) 取組状況・成果

##### ①シラバスや AMBI 独自のマニュアルを作成

昨年の「新授業計画(シラバス)」の導入からさらに発展させ、これまで超美容師特化型カリキュラム編成委員会と共有してきた技術マニュアルから一部新たに AMBI 独自のマニュアルを作成し、さらなる指導内容の統一を図る。実施中。

##### ②超美容師特化型カリキュラム拡大会議の実施

『超美容師特化型カリキュラム編成委員会』と直接学生指導にあたる教務部教員との情報共有のため、学期ごとに関係者全員による拡大会議を実施。タイムリーに改善につなげることができている。

#### (3) 課題

##### ①シラバスや AMBI 独自のマニュアルを作成

キャリア生が AMBI と店舗のマニュアルの違いに戸惑っている。指導の統一を求めている卒業生が、就職後に教え方の違いで壁にぶつかり、成長が止まることがある。

##### ②超美容師特化型カリキュラム拡大会議の実施

特にない。

#### (4) 今後の取組

##### ①シラバスや AMBI 独自のマニュアルを作成

「そもそも、お客様は髪質も頭の形も異なっており、常に同じやり方で施術することはできない!また、接客もそれぞれ異なる対応を求められることが当たり前!」の視点から、教え方を統一するのではなく、技術の基本を徹底し、様々なアレンジを吸収できる状態を目指す。具体的には、基礎の部分は統一されたマニュアルで AMBI 教員、または超美容師特化型カリキュラム編成委員の講師により指導を行い、その後、様々な美容室の現役美容師を講師として招聘し、様々なスタイルにチャレンジする授業を展開する。「カットのやり方は人それぞれ違って当たり前」の感覚を身に付け、「教え方が違うから習得できない」から「こんなやり方もあるんだ。習得したい」の意欲的柔軟な姿勢への転換を図る。同時に、様々な講師が入れ替わることで、「この瞬間しか学べない」という積極的に学ぶ姿勢を身に付けさせる。

##### ②超美容師特化型カリキュラム拡大会議の実施

共有と区別とのバランスを取りながら継続する。

#### IV. 項目毎の記述

##### (1) 教育理念・目的・人材育成像

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
学校の理念・目的・育成人財像・育成目標は定められているか。	④	3	2	1
学校の理念・目的・育成人財像・目標などが、職員・学生・業界関係者・保護者等に周知がなされているか。	4	③	2	1
社会や業界のニーズを踏まえた将来構想を抱いているか。	4	③	2	1

##### ①課題

卒業する学生の到達度を見るに、理想と現実とは差があり。また、卒業した時点からその後の成長につながる指導が求められる。結果、すぐ他校の卒業生に追いつかれるようでは、十分な育成指導ができていないと言えない。

##### ②今後の改善方策

目標や理念は変わらない。学生にも、業界にも、目指す方向性を周知し続けると同時に、卒業までに到達を目指す内容については、既存の学習方法に捉われずその都度の学生に合わせて柔軟に調整し、習得できる環境を整える。

##### ③特記事項

育成目標「卒業までにカットデビュー」などといった学校の掲げる方針等に対する業界からの理解や応援を感じる。特に県内。

##### (2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
学校の理念等に沿った運営方針が定められているか。	4	③	2	1
運営方針を実践するための事業計画が策定されているか。	4	③	2	1
運営組織や意思決定機能は明確化されているか、また有効に機能しているか。	4	3	2	①

##### ①課題

定めは十分だが、相変わらず定めも教職員・学生ともに浸透が一律ではない。指導にバラつきもある。教職員間であっても大きな差がある。引き続きのコロナ禍で、決定や進行がギリギリであったり後手に回ることもある。

##### ②今後の改善方策

教職員の役割を再編成。また、接客者を目指す学生にとって、リアルな学びは不可欠である。オンライン授業は実施しない。コロナ禍であっても、外部との接触を伴う授業も可能な限り継続する方針である。

##### ③特記事項

### (3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
育成目標を達成するための修業年限に応じた教育到達レベルは明確にされているか。	4	③	2	1
関連分野の企業・関係施設等との連携によるカリキュラムの開発・作成が行われているか。	4	③	2	1
学生の現状や業界のニーズにより、教育方法の工夫・見直しが行われているか。	4	③	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか。	4	③	2	1
成績評価、進級・卒業の認定基準は明確かつ適切に運用されているか。	④	3	2	1
育成目標を達成することができる要件を備えた教員が確保されているか。	④	3	2	1

#### ①課題

まだまだ「卒業までにカットデビュー」が達成できてはいない。技術もだが、精神面の成長が必要。

#### ②今後の改善方策

新たな講師を複数入れ替わり招聘するなど、さらに学生に関わる人数を増やし、精神面の向上を図る。

#### ③特記事項

1学期後半に学校生活に関するアンケートを、12月に授業アンケートを実施。

### (4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
就職指導計画が策定され、就職率の向上が図られているか。	④	3	2	1
資格取得指導計画が策定され、資格取得率の向上が図られているか。	4	③	2	1
卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4	③	2	1

#### ①課題

相変わらず、同窓会は機能していない。

#### ②今後の改善方策

同窓生セミナーは好評だ。継続する。

#### ③特記事項

卒業生へのアンケートは勤務先に送り、会社から渡してもらうことで回収率がUP。

## (5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
進路に関する支援体制は整備されているか。	4	③	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか。	4	③	2	1
保護者と適切に連携しているか。	4	3	②	1

### ①課題

思わぬことから問題は発生し、正解も一つじゃない。毎度試行錯誤。

### ②今後の改善方策

学期ごとの家庭向け学校新聞の発行を継続。一人ひとりに向き合う。

### ③特記事項

担任面談と進路面談と両方を学期ごとに実施。

## (6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	③	2	1
学外実習等に関する体制は整備されているか。	④	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか。	4	③	2	1

### ①課題

体制としては十分だが、コロナ禍により外部と接触のある授業等については調整や変更が余儀なくされる。

### ②今後の改善方策

急な変更が生じても、繰り返し調整が生じても、学外実習等は継続していく。

### ③特記事項

社用車を買替えた。



(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
高等学校等接続する機関に対する情報提供の取り組みが行われているか。	4	3	②	1
学生募集活動は、適切かつ効果的に行われているか。	4	3	②	1
学納金は妥当であるか。	④	3	2	1

①課題

コロナ禍で高校訪問などができない。動向が掴みにくい。

②今後の改善方策

次年度も専門部署設置の予定なし。教職員が一丸となっていく。学生の満足度は学生募集につながるという認識で、学生指導にあたる。

③特記事項

授業等減免と給付型奨学金の修学支援新制度は引き続き申請し、認定されている。

(8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	③	2	1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	③	2	1
学生数変動に応じた計画が組まれているか。	4	③	2	1

①課題

今は問題なくても、毎年の入学者数が不確定なので、先が見えない部分もある。

②今後の改善方策

職員の給与は、世間や情勢と照らし合わせながら都度見直していく。

③特記事項

変わらず借金なし。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4	③	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4	③	2	1
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4	③	2	1

①課題

努めているが、手探りの部分もある。後手に回ることもある。

②今後の改善方策

継続して努めていく。

③特記事項

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により学校評価委員会の開催を中止。書面にて評価を行う。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	③	2	1
地域に根差した学校となるための活動を積極的に実施しているか。	4	③	2	1
学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。	4	3	②	1

①課題

コロナ禍で外部からの依頼はほぼない。

②今後の改善方策

学校行事等については、コロナ禍であっても感染対策をして実施する。

③特記事項

現在の主な地域交流…清掃活動、AMBI 祭 in わっタン、保育園や養護施設との交流

令和 3 年度  
学校関係者評価報告書

令和 4 年 3 月 31 日  
アンビシャス国際美容学校

## 1. 学校関係者評価委員

《美容関連企業》

(株)エフ・ワイ・シー 執行役員 久保田努

(株)ラミル・ビー 店長 近藤孝則

《地域協力企業》

有限会社ぶんどう 取締役 分藤貴弘

## 2. 令和3年度年度の委員活動等

4月 校長が各委員へ当該年度の取り組みを個別に説明。

4月15日 近藤委員が新生を対象に同窓生セミナーを開催

11月5日 全委員が校内コンテスト『AMBI杯』に審査員として参加。

翌3月 書面による学校関係者評価を実施。

※入学式及び卒業式に来賓としての参加はコロナ禍のため見送り。

## 3. 令和3年度 学校関係者評価報告

以下の項目についての評価結果は別紙の通り。

I. 学校の現況

II. 評価の基本方針

III. 重点目標

IV. 項目毎の記述

V. その他

## I. 学校の現況について

より学生数が増加し、活気溢れる学校としてますますのご繁栄に期待する。  
指導が行き届く範囲内の学校として、適正な規模・体制だ。  
地元根付く専門性のある人材を育成する役割を、引き続き遂行していただいたい。

## II. 評価の基本方針について

素晴らしい評価方針だ。  
『評価』は自らの『問い』があってこそ成り立つもの。現在、学校教育現場では、教えすぎる形からの変化が求められている。ぜひ、それに挑んだ現場づくりを目指して頑張ってもらいたい。

## III. 重点目標について

### (1) 重点目標

現行の超美容師特化型カリキュラム導入後の卒業生のその後を追跡し、しっかり検証していただきたい。  
引き続き、目標達成に向けて頑張ってもらいたい。  
目標達成は、それ以上の高い夢があってこそ。その高い夢設定への導きとして頑張ってもらいたい。

### (2) 取組状況・成果

素晴らしい。  
先生方の努力によって、成果は出ていると感じる。  
コミュニケーション能力の掘り起こしを行い、さらなる取り組みに励んでほしい。

### (3) 課題

課題解決のための工夫が必要だ。  
学校で学んだことと、美容室のマニュアルとの違いは仕方がないこと。それが原因で悩んだり、成長が止まるなど、もったいないことが無くなるよう、事前の声掛けが必要だ。  
どの業界でも起こりうる課題だと感じる。とにかく基本を追及していけば、ゆくゆくは変化に強い人材に成長できるので、課題をチャンスに変えて頑張ってもらいたい。

### (4) 今後の取組

素晴らしい。今後も楽しみだ。  
この取り組みの説明を受け、とても良いと感じた。学生が混乱してしまわないようフォローをお願いしたい。  
今後の取り組みに期待する。  
得意を伸ばすのか、不得意を克服するのか、学生と向き合いながら引き続き頑張ってもらいたい。

## IV. 項目毎の記述について

### (1) 教育理念・目的・人財育成像

目的や目標は素晴らしいので、あとは評価項目の評価が十分でない部分を埋めていけば、さらに良くなるだろう。

周知し続け、AMBI の目指しているイメージを確固たるものにしていけば、他校との差別化がよりクリアになるだろう。

業界からの理解や応援は嬉しいことだ。

とにかく、定めたことを徹底的に貫く姿勢が必要。他者との比較よりも、どう幸せに生きていけるのかをそれぞれが追及できれば、お客様にその幸せを分け与えることができるはずだ。

## (2) 学校運営

掲げられた改善点をしっかりと行ってもらいたい。

コロナ禍でもできる方法を考えていかないといけない。

運営側・教職員のコミュニケーションが充実していれば、自ずと学生に浸透していくと思われる。とはいえ、人の価値観は多岐にわたるもので、統一していくことは容易ではないだろうが、仲が良ければほとんどの問題は小さくなっていくだろう。

## (3) 教育活動

卒業までにカットデビュー出来ないのは、内容が悪いのか、教え方が悪いのか、教わる側の意識が低いのか、何らかの原因があると思われるので、常に改善していく必要がある。

もはや、技術面よりも精神面が重要だと思われる。

日本の教育が『学校』にすべてを投げてきたツケが今訪れている。本来、家庭で完結すべき精神面の成長が難しくなっている現在において、困難もあると思うが、とにかく工夫し、追及して行ってもらいたい。

## (4) 学修成果

高評価なので、今後も期待する。

毎年出来ていないことは、形を変えて執り行うなどの工夫も必要だ。

同窓生セミナーが好評で良かった。

大変良い取り組みだ。継続していけば、次世代のリーダーが現れ発展する可能性は大いにある。そのリーダーの創出と支援のための準備をしておく必要がある。

## (5) 学生支援

学校側からの支援（相談等）は出来ているように思うが、プライベートな部分（金銭面や家庭環境）は保護者などご家族との連携や協力がどうしても必要になる。その点をもう少し頑張っていたきたい。

学生支援は片手間ではできない。学内は教育活動で忙しいので、進路支援など、外部と連携・共有していくのが良いのではないかな。

## (6) 教育環境

素晴らしい。

3年目に入ったコロナ禍でよくやっていると感じている。コロナ後は、外部とも連携してさらに地域に根差した活動を行ってほしい。

### (7) 学生の受入れ募集

現状だと大きくは動けないので今の職員の数で問題はないのだろうが、今後はもっと体制を整えておかなければ、課題はクリアできないように思われる。

新入生確保のためにも、募集活動の作戦を考えないと。

学生の SNS 能力は高いので、それに集中することが大切。

高校などの教育現場は年々疲弊していつているので、先生との情報共有から募集を行う体制には限界がある。地域の中高生に直接アピールできる場が必要。

### (8) 財務

回答は控える。

引き続き健全経営を続けてほしい。ただ、時代を切り開いていくには、人材確保や連携に投資も必要になってくるだろうから、今後の学生確保が求められる。

### (9) 法令等の遵守

特に問題ない。

個人情報漏洩などの法令が厳しくなっているから、それらの対応も必要になってきている。

### (10) 社会貢献・地域貢献

素晴らしい活動を継続することを期待している。

学校周辺の清掃活動は、地域に好印象であるから引き続きの実施を望む。その時、爽やかで気持ちの良い挨拶を全員ができるようにし、地域から愛される AMBI であることを願う。

コロナ後に積極的活動を。

学生の挨拶ができていないと感じる。せめて、学校付近では、積極的に自分から挨拶をするとよい。

## V. その他、ご意見等

コロナ禍で取り組みないことも多いと思われるが、これからもよろしくお願ひしたい。

何かあれば喜んで協力したい。

アンケート等で、学生が内に秘めていることを聞き出す機会はとても良い。あとは、その意見や希望を、学校側がいかに噛み砕いて取り入れることができるかだと思う。応えようという学校の姿勢が見えなければ、「どうせ意味ないやん」と適当に回答することもあるだろうし、信頼関係にも繋がるだろう。大変さも察するが、継続してほしい。

これからも AMBI を応援したい。

様々な価値観が乱立している教育現場でよい経営をしている。ただ、日本の子どもたちの生活環境は年々偏ってきており、『家庭教育』の機能が低下する中、学校や地域は大きな役割を担ってきたにも関わらず、国がその状態を改善しようとせず学校や地域が疲弊してしまっていると感じる。子どもたちをみんなで育てる国には程遠い。重要な役割を担っている貴校に頑張ってもらいたい。